

「着衣遊泳」、初めて聞いたのはこの言葉だった。そしてこの言葉の印象は、洋服を着て泳ぐ・一種の古式泳法のようなトレーニングだった。

水の中では洋服、特に靴は直ぐに脱がないと泳げないと思っていた。そのように教えられたのかも知れないし、多くの人が同じイメージを持っているようだ。

確かに靴を履いたり洋服を着て泳ぐのは難しい。

たまたま着衣泳関係の本を2冊手に入れた。はじめに手にした本は、着衣で浮くこと、泳ぐことの両方を取り入れていた、「着衣遊泳」である。もう一冊は着衣泳研究会の「命を救う着衣泳」だった。この本に書かれていることは、「着衣で泳ぐ」ことではなく「浮いて待つ」だった。だから、着衣遊泳ではなく「着衣泳」なのだ。「着衣泳」では靴でさえ浮力の一部であり、浮力のある衣類を脱いだりはしない。

いかにして浮力を利用して救助を待つかである。

インストラクターとして人を助ける技術を指導してきた自分にとっては、「助ける技術」ではなく、無理して体力を使わず助けを待ち、陸上からの協力で救助される「助かる技術」は新鮮だった。落水した人が、自力でしばらく浮いていることが出来たら、水辺の安全が格段に増すはずである。

早々、この着衣泳研究会に連絡をいれると、代表の斉藤さんは快く面会を承諾して頂いた。それどころか斉藤さんもダイビング指導者との接点を探されていたのだった。

斉藤さんはフィールド（海洋）での着衣泳指導を考えておられたのだった。（着衣泳研究会もまだこの時点では海洋指導は行っていなかった）海での指導を本業をしている我々インストラクターには、着衣泳のフィールド指導はうってつけである。

早々、斉藤先生をJCUEフォーラムにお招きして、講演を行っていただいた。このときに参加したメンバーにも、「着衣泳」の考えに共感を覚えていただき、静岡県富戸の小学校での着衣泳講習会企画が生まれた。

この後、JCUEの多くのメンバーと共に着衣泳のプール指導者養成講習会を受講した。また、静岡県伊東市富戸小学校のプールで着衣泳講習会を行った後、海洋での体験を行った。

9月19～20日静岡県賀茂郡西伊豆町で着衣泳プール指導員向けの初めての「海指導員養成講習会」が開催された。JCUEメンバーも数多く参加し、時間と共に変化してゆく水深、指導者の立ち位置、講習生の体の向きや、浮力の確保、安産管理の方法などを、実技体験と積極的な意見交換が行われた。結果30名近い、「海の指導者」が誕生した。新たなフィールド指導へのスタートである。

ダイビング指導者は、フィールドの指導手法の強みを利用して、着衣泳の指導を地域の学校やコミュニティへの積極的に働きかけるべきであるし、ダイビングだけを教えるのではなく、「地域の水辺の安全」の啓発も積極的に行うべきである。

JCUE会員の皆様が、富戸小学校の事例のように、「着衣泳」をきっかけに地域コミュニティや学校に働きかけ「水辺の安全の啓発」の大きな一歩となってくれば幸いである。

今後とも、JCUEでは着衣泳ワークグループを中心に、着衣泳研究会の活動に協力し、着衣泳の普及に努めていくつもりである。